

平成 2 8 年度 疫学倫理審査対象研究課題の概要

研 究 課 題	迅速・網羅的病原体ゲノム解析法の開発及び感染症危機管理体制の構築に資する研究	
実 施 期 間	平成 2 8 年 4 月から平成 3 1 年 3 月まで	
研究目的・内容	次世代シーケンサー（NGS）解析等により得られた種々のウイルス・細菌ゲノム情報と先端バイオインフォマティクス技術を応用し、種々の重症あるいは原因不明感染症の病原体の詳細な分子疫学、主要抗原の分子進化ならびに流行予測に資する包括的な研究を行うことを目的とする。また、アウトブレイク（原因不明の感染症・食中毒）に関連した患者検体あるいは分離病原体について包括的ゲノム解析により病原物質の特定、感染源の特定等を行い、感染症・食中毒の予防・拡散防止対策に資する枠組みを構築することを目的とする。	
期待される効果	○病原体のデータベースの構築、原因不明感染症および食中毒の起病病原体の解明により適切な診断や治療対策が確実に実施でき、県民の健康保持につながる。 ○当センターでの新たな病原体検出・検査手技の確立、病原体サーベイランス機能の充実につながる。	
倫理的配慮事項	○検体および対象者の基本情報は検体を採取した医療機関で番号制とし、当センターには氏名、詳しい住所、生年月日などの個人を特定できる情報は送付しない。（当センターとしては個人との連結は不可能な形となる。） ○行政検査検体を使用する際には連結不能匿名化して使用する。次世代シーケンサーにて得られたヒトゲノム情報は削除ソフトを用いて除去し、病原体のゲノム情報のみを扱う。 ○本研究で得られた成果を当センター年報および関連学会等での発表等により公表する際には、患者の個人名などの個人情報は一切公開されることはない。 ○検体を採取する医師が研究の目的、内容およびこれに伴う個人情報の保護についての説明を行い、文書（別紙）または口頭で同意を得る。（試料の採取が侵襲性を有しない。）	
主 な 意 見 等	意 見	対 応
	特になし	特になし